



さわやかな空気、自然界の織り成す緑が美しい。日本の伝統色で表現すると萌黄色(黄緑)、
若葉色、青磁色、柚葉色(濃く暗い緑)、鶯色、常盤色(常緑樹、やや茶がかかった緑)…。たくさんの
緑がそこかしこにあふれ、植物の命がまぶしく輝く季節です。皆さまは、いかがお過ごしでしょうか。

ところで、私はあだ名が「マメ」と言われていました。このあだ名がついたのは、私の中学校は当時昼食持参で、お弁当に豆料理がとて多かったことに由来します。豆が大好きな私のために、母は、ぶ厚い卵焼きに緑の豆を入れ、切口が鮮やかでお弁当の中で輝いていました。

家ではうずら豆やいんげんの含め煮、豆入りコロッケなど。昔は乾燥豆を一晩水につけるなど当たり前に行っていて、私は今でもそうですが、一旦煮ておけば、煮物に、サラダに、スープに、豆は何にでも使える手軽な食材です。

初夏には、ほっくりと香りのよい『豆ご飯』が大好きでした。

先日も、美味しい豆ご飯をつくろうと、米3合にスナップエンドウ150g程をいれて塩ひとつまみ、お酒少々で土鍋で炊いてみました。絹サヤより甘味も加わって、いい感じにはできたのですが、香り、味、かつて感動した母の味はうまくだせません。豆は茹でて、後から入れる方法もありますが、私は最初から入れる派です。ダン代わりに昆布茶を少しいれても美味しい。



これを読んでいる皆様の中で、こうした食にまつわる思い出の中で懐かしい食べてみたいものがあれば、厨房や職員にお話ししてみてくださいね。

今年、当社の「ぼえむの森」農園では、里芋を主として植え付けして各施設ごとに楽しんでいただこうと張り切っていますよ。

北上川流域は里芋の生産に向いた土壌で、里芋の歴史は古く、縄文時代に米よりも早く日本に入ってきたといわれています。ねっとりやわらかい舌ざわりが日本一と評される北上の「二子さといも」や、盛岡南地区でホクホクした食感の「津志田芋」など。秋に芋の子汁や里芋の煮ころがしなど「ぼえむの森の里芋」、どうぞ楽しみにしていて下さい。

さて6月の請求書を同封します。何かありましたらお気軽にお問合わせください。この先の夏の天候は、「また猛暑」となる見込みのようです。これから蒸し暑い日が続きますので、くれぐれもお身体ご自愛下さい。

2025年6月10日 総施設長 神原美智子

いちごの収穫。徳寿は何種類も野菜を育てていて次々、収穫が続いています



▲徳寿の森
デイサービス

▼ADL 向上
センター



5月の創作レク:
鯉のぼりと兜づくり



福寿の森では、地震や火災を想定して避難訓練を行いました



▼クレープ作り



加賀野の森5月誕生会:
ベリーダンスに
圧倒されました

